

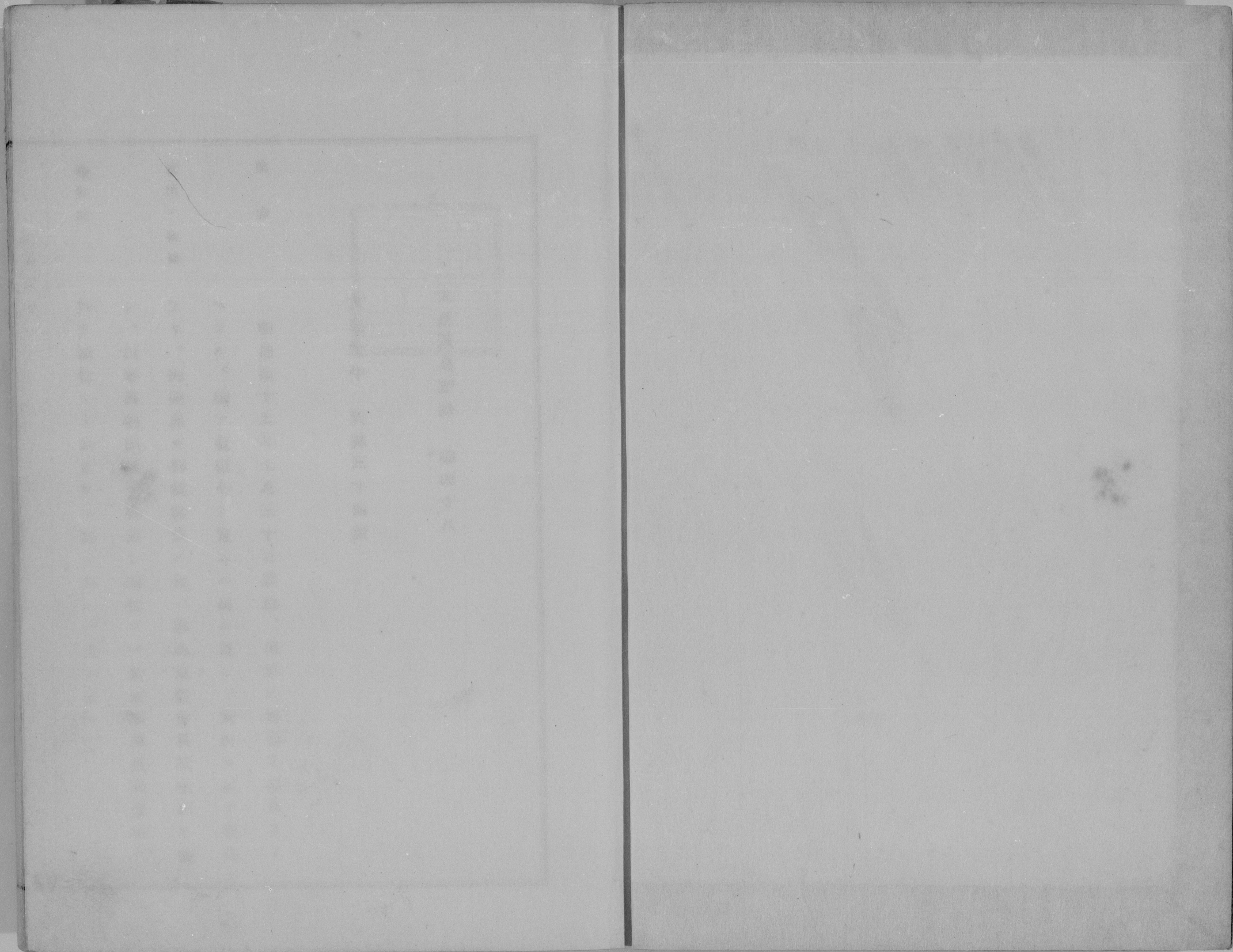
3204 201

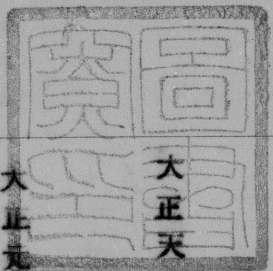
大正天皇實錄 卷四十八

7 8 9 70 1 2 3 4 5 6 7 8 9 90 1 2 3 4 5 6 7 8 9 90 1 2 3 4 5 6 7 8 9

圖書寮	
冊號	64047
冊數	97
函號	秘 4

3204 202





大正天皇實錄 卷四十八

大正元年 實算三十四殿

殿
非

實所ノ御儀

御告文

明治四十五年七月三十日踐祚、祖宗ノ神器ヲ繼承アツ
 テフル。即テ登極令ノ定ムル處ニ違ヒ、實所ニ於テ祭典
 アリ、御開扉・神饌奠供ノ後、華典長岩倉具綱祝詞ヲ奏
 シ、内華典朝山儀子御鈴ヲ奉仕ス。岩倉華典長天皇御代
 并テ奉仕シア御告文ヲ奏シ奉ル。文ニ曰ク、

大正元年七月

實所乃大前爾白久左由由志支爾事乃起且朕今歎支悲美
 為術知受良有止禮天位波一日母曠志久為爾倍支有波爾波乃式
 乎行且比皇考乃基業乎承繼支我皇考乃皇祖皇宗乃傳給
 閉洪誤爾連且皇基乎彌張爾張利民福乎彌進爾進且米大
 御後厥乎內爾外爾輝加志給志比事波歷朝爾超給爾朕拙
 方支身乎以且其廣支高支御業乎承繼且支過知汚須事無
 止支加只信爾深知恐留是乎以且皇祖皇宗及我皇考乃恩
 願乎家利足乎波叙補比速波叙助計給波受如何且此湯藥
 乎整閉全留久須事乎待倍故其深支厚支大御恩爾願且利我
 皇國乃後厥波彌益益爾四方八方爾輝支皇祖皇宗乃傳

皇靈殿・神
 殿ニ於テ
 御奉告ノ
 儀

給比遺給爾大御業乎彌遠水爾常磐爾堅磐爾立榮坐左
 木給爾祈請白須事乎開食止世白須
 ト。尋イテ奉典宮地殿夫皇后御代并ヲ奉仕ス。後、撤饌。
 御閉扉アリ、其ノ儀畢ル。皇靈殿。神殿ニ於テモ亦隨昨
 御奉告ノ儀アリ。岩倉奉典長祝詞ヲ奏シ、御代并ヲ務メ、
 御告又ヲ奏スルコト前ノ如シ。但シ二殿共ニ御鈴ノ儀ナ
 シ。七月三十一日ニハ實所第二日ノ儀、八月一日ニハ同
 三日ノ儀アリ、其ノ次第概ネ第一日ノ如シト雖モ御告文
 無シ。
 實所第一日ノ儀並ヒニ皇靈殿・神殿御奉告ノ儀ト同時

ニ正殿ニ於テ劍璽渡御ノ儀ヲ嚴ニ行ハセラル。其ノ儀午
 前一時御座所ヨリ正殿ニ出御、式部長官伯爵戸田氏共・
 宮内大臣伯爵渡邊千秋前行シ、侍從長代理侍從職御用掛
 公爵九條道實・侍從子爵河譜公篤・同子爵松浦端・侍從
 武官長男爵中利覺・侍從武官男爵西神六郎・同男爵山根
 一貫御後ニ候シ、貞愛親王・敏仁親王・依仁親王・博恭
 王・邦彦王・守正王・鳩彦王・稔彦王・成久王・恒久王
 ヲ供奉セシメ御座ニ着カセラル。次ニ式部次官公爵伊藤
 博邦・内大臣公爵徳大寺實則前行シ、寶劍ハ侍從子爵東
 國基愛、神璽ハ侍從子爵北條氏恭奉仕シテ劍璽渡御アリ、

續キテ内大臣秘書官日高秩父捧持シテ國璽・御璽之ニ從
 ヒ、侍從武官上田兵吉扈從シ御座ノ前ニ進御ス。是ニ於
 テ徳大寺内大臣恭シク劍璽・國璽・御璽ヲ順次御前ノ案
 上ニ奉安シ、天皇御會釋アツセラル。時ニ大勳位公爵山
 縣有朋・同公爵大山巖・同侯爵松方正義・同侯爵井上馨・
 同伯爵東郷平八郎・内閣總理大臣侯爵西園寺公望・元帥
 海軍大將伯爵伊東祐亨・同陸軍大將伯爵奧保鞏・同海軍
 大將子爵井上良馨・海軍大臣男爵齋藤實・遞信大臣伯爵
 林董・司法大臣松田正久・内務大臣原敬・外務大臣子爵
 内田康哉・農商務大臣男爵牧野伸顯・文部大臣長谷場純

改元

孝・大藏大臣山本達雄・陸軍大臣男爵上原勇作正殿ニ班列ス。俄畢リテ直ニ入御アリ、東園侍從實劍ヲ奉ジテ御前ニ、北條侍從神靈ヲ奉ジテ御後ニ從フ、其ノ他前行供奉等總テ出御ノ時ニ同ジ。

既ニシテ踐祚アラセラルルヤ、更ニ皇室典範・登極令ニ基ツキ改元ヲ行ハセツレ、樞密顧問ノ諮詢ヲ經テ大正ト定メ給フ。其ノ詔ニ曰ク、

朕非徳ヲ以テ大統ヲ承ケ祖宗ノ靈ニ語ケテ萬機ノ政ヲ行フ茲ニ

先帝ノ定制ニ遵ヒ明治四十五年七月三十日以後ヲ改

大正ノ興盛

メテ大正元年ト爲ス主者施行セヨ

ト。因ニ新元號ハ易經ニ「大亨以正天之道也」ト曰ヒ、又「剛上而尚賢能止健大正也」ト曰ヘルニ採リ給ヘルナリ。抑、明治天皇改元ノ際ハ、中古以來行ハセツレタル改元ノ式ヲ用ヒ給ハズ、元號勅進ノ案ニ就キ、吉祥ノ語ニ案ヲ撰擇セシメ、實所大前ニ於テ天皇親ラ其ノ年號ヲ記シタル圖ヲ抽キ、神靈ヲ候シテ之ヲ勅定セラレシガ、今回ハ登極令ニ遵リ樞密顧問ニ諮詢アリ、從ヒテ茲ニ往古難陳ノ遺式ヲ再現シ、豫メ大正・大興・興化ノ三案ニ就キテ難問講究セシメ給ヘルハ、蓋シ特記スベキモノト

青山離宮ニ
遷御

各國元首ノ
弔意

皇太后宮職
官制

ス。

午前十時五十五分宮城御出門、十一時十分青山離宮ニ
遷御、午後二時皇太子裕仁親王・皇子雍仁親王・宣仁親
王政ヒニ皇妹聰子内親王ニ謁ヲ賜フ。又各國元首ハ本邦
駐劄大公使ヲシテ參内、弔意ヲ表セシメ、或ハ弔電ヲ寄
セタルヲ以テ、各國大公使館ニ答禮使ヲ遣シ、又ハ返電
ヲ發送セシメ給ヘリ。侍從職日記・侍從武官府日記・儀
式錄・明治天皇大喪錄・官報・外
交錄

是ノ日、皇太后宮職官制ヲ制定シ、之ヲ公布施行セシ
メ、從二位勳一等伯爵香川敬三ヲ皇太后宮大夫ニ任ジ、

圖書寮

大喪使官制

大喪使總裁
以下ノ任命

特ニ親任官ノ待遇ヲ賜ヒ、以下職員ノ任命アリ、又當分
ノ内、侍從長二人ヲ置キ、内一人ハ東宮大夫男爵渡多野
敬直ヲシテ兼任セシメ、八月十三日之ヲ廢ス。又、大喪
使官制ヲ制定シ、之ヲ公布施行セシメラル。仍テ大行天
皇ノ大喪ニ關スル事務ヲ掌理セシムル爲メ、宮中ニ大喪
使ヲ置キ、總裁・副總裁・事務官・書記ヲ置ク。翌三十
一日總裁ニ大勳位功二級貞愛親王ヲ、副總裁ニ宮内大臣
伯爵渡邊千秋ヲ、事務官ニ内閣書記官長南弘以下五十三
名ヲ命シ、更ニ祭事ヲ掌ラシムル爲メ祭官長・副祭官長・
祭官・祭官補ヲ置キ、祭官長ニ正二位勳三等公爵藤原可照

膳後朝見

通ヲ、副祭官長ニ從二位勳三等伯爵正親町實正・從二位勳四等伯爵萬里小路通房ヲ命セフレタリ。侍從武官府日記・

三十一日、午前八時四十五分青山離宮御出門、皇后ト大藏記・明治天皇大喪錄・官報・

俱ニ宮城ニ出御、膳後朝見ノ儀ヲ行ハレタリ。即チ大勳位公爵山縣有朋・同公爵大山巖・同侯爵松方正義・同侯爵井上馨・同伯爵東郷平八郎・内閣總理大臣侯爵西園寺公望・元帥伯爵伊東祐亨・同伯爵奧保章・同子爵井上良馨・朝鮮總督伯爵寺內正毅・海軍大臣男爵齋藤實・遞信大臣伯爵林董・司法大臣松田正久・內務大臣原敬・外

務大臣子爵內田康哉・農商務大臣男爵牧野伸顯・文部大臣長谷場純孝・大藏大臣山本達雄・陸軍大臣男爵上原勇作・正二位伯爵土方久元。同伯爵岡田中允顯。同伯爵岡板垣退助・海軍大將伯爵山本權兵衛・正三位子爵平田東助。同子爵岡大浦兼武・海軍大將伯爵樺山資紀・陸軍大將伯爵佐久間左馬太・同伯爵黒木爲楨・同子爵長谷川好道・同伯爵乃木希典・同子爵川村景明・同子爵大島義昌・海軍大將男爵柴山矢八・陸軍大將子爵大島久直・同子爵大迫尙敏・特命全權大佐子爵柴野慎一郎・同男爵高平小五郎・陸軍大將男爵大久保春野・海軍大將男爵日高壯之丞・陸軍大將男爵土

屋元春。海軍大將男爵片岡七郎。同男爵上村彦之丞。同
 男爵伊集院五郎。陸軍大將男爵敷島重雄。特命全權大使
 杉村虎一。陸軍大將男爵上田有澤。樞密院副議長伯爵芳
 川顯正。樞密顧問官子爵福岡孝弟。同男爵細川潤次郎。
 同子爵河瀬眞孝。同子爵中平出倉之助。同男爵九鬼隆一。
 同侯爵蜂須賀茂韶。同子爵高島兩之助。同子爵伊東巳代
 治。同子爵黒田清綱。同子爵金子堅太郎。同子爵末松謙
 澄。同子爵清浦奎吾。同男爵南都變男。同男爵加藤弘之。
 同子爵青木周藏。同伯爵香川敬三。同男爵松平正直。同
 子爵三浦梧樓。同男爵船越衛。同男爵濱尾新。拓殖局總

教元出肇。樞密顧問官子爵花房義實。同男爵周布公平。
 關東都督男爵福島安正。樞密顧問官男爵菊池大麓。同男
 爵北垣國道以下親任官待遇。貴族院議長公爵徳川家達。
 衆議院議長大岡育造及ヒ公爵。從一位。勳一等。侯伯子
 男爵總代。朝鮮貴族總代。各廳勅任官總代。同奏任官總
 代等二百七十餘名正殿ニ參進、本位ニ就クヤ、十時式部
 長官伯爵戸田氏共。宮内大臣伯爵渡邊千秋前行シ、侍從
 日根野要吉郎寶劍ヲ、侍從日野西資博神璽ヲ奉シ、侍從
 長男爵波多野敬直。侍從本多正復。同子爵海江田幸吉。
 侍從武官長男爵中村覺。侍從武官男爵西神六郎。同男爵

勅語

山根一貫・同上田兵吉御後ニ候シ、貞愛親王・載仁親王・依仁親王・博恭王・邦彦王・守正王・鳩彦王・松彦王・成久王・恒久王・王世子李垠ヲ供奉セシメテ出御、皇后、皇后宮大夫心待公爵一條實輝前行ニテ、女官吉見光子・同生源寺政子御後ニ候シ、載仁親王妃智恵子・依仁親王妃周子・邦彦王妃悦子・守正王妃伊都子・成久王妃房子内親王・恒久王妃昌子内親王ヲ供奉セシメテ續キ給フ。玉座ニ著御ノ後、玉音高ラカニ勅シ給ヒテ曰ク、朕俄ニ大喪ニ遭ヒ哀痛極リ悶シ但タ皇位一日モ曠クスヘカラス國政須臾モ廢スヘカラサルヲ以テ朕ハ茲

圖書寮

ニ踐祚ノ式ヲ行ヘリ

願フニ先帝睿明ノ資ヲ以テ維新ノ運ニ膺リ萬機ノ政ヲ親フシ内治ヲ振刷シ外交ヲ伸張シ大意ヲ制シテ祖訓ヲ昭ニシ典禮ヲ領テ蒼生ヲ撫ス文教茲ニ敷キ武備爰ニ整ヒ庶績咸熙リ國威維揚ル具ノ盛徳鴻業萬民具ニ仰キ列邦共ニ祝ル寔ニ前古未ダ曾テ有ラサル所ナリ
 朕今萬世一系ノ帝位ヲ踐ミ統治ノ大權ヲ繼承ス祖宗ノ宏謨ニ遵ヒ憲法ノ條章ニ由リ之レカ行使ヲ愆ルコト無ク以テ先帝ノ遺業ヲ失墜セサルムコトヲ期ス有

内閣總理大臣奉答文

可須ラク先帝ニ盡シタル所ヲ以テ朕ニ事ヘ臣民亦和衷協同シテ忠誠ヲ致スヘシ爾等克ク朕カ意ヲ體シ朕カ事ヲ獎順セヨ

ト。優渥ナル勅語ヲ拜シ、内閣總理大臣侯爵西園寺公望輔弼如トシテ玉座ノ前ニ進ミ、恭シク群臣ニ代リテ奉答ス。其ノ文ニ曰ク、

臣公望 誠惶誠恐伏シテ言ウス

大行天皇奄ニ登遐アツセラレ臣民憂懼措ク所ヲ知ラス今

敬聖文武ナル天皇陛下大統ヲ承ケサセラレ茲ニ葬訓

圖書寮

ヲ垂レ給フ

聖猷遠ク慮リ睿圖遺スナク上ハ

先帝ノ鴻業ヲ續キテ憲法ノ條章ニ循ヒ下ハ億兆ノ和

協ヲ獎メテ忠誠ノ至情ヲ輸サシメ以テ

祖宗ノ休光ヲ無窮ニ發揚セムトシ給フ是レ寔ニ宇内

ノ齊シク仰ク所ニシテ臣庶ノ水ク頼ル所ナリ

聖勅ヲ拜シ感激ノ至ニ勝ヘス今ヨリ後益々匪躬ノ節

ヲ效シ夙夜淬礪邦家ノ進運ヲ扶翊シ以テ

聖旨ニ答ヘ奉ラムコトヲ誓フ臣公望 誠惶誠恐頓首謹

ミテ奏ス

陸海軍軍人
勲章ヲ賜フ

ト、俄畢リ、十一時十分入御アラセラル。尋イテ陸軍大臣男爵上原男作・海軍大臣男爵齋藤實ヲ召シ、特ニ陸海軍軍人ニ左ノ勲章ヲ賜フ。

朕茲ニ大統ヲ嗣キ列聖ノ遺烈ヲ承ク萬世一系ノ帝祚ヲ踐ムニ方リ特ニ朕カ親愛スル陸海軍人ニ告ク惟フニ皇考養ニ汝等ニ軍人ノ精神五^箇條ヲ訓諭シ一誠以テ之ヲ貫ク^可キヲ示シ給ヘリ汝等軍人ハ夙夜此聖訓ヲ奉體シ累次ノ征戰ヲ經國威ヲ宣揚シ皇基ヲ恢弘シ以テ曠古ノ偉蹟ヲ異辰シタリ
朕ハ朕カ統率スル所ノ軍隊ハ即チ慈育愛撫シ給ヒタ

圖 書 寮

ル所ノ軍隊ナルヲ念ヒ汝等軍人ノ忠勇ニ信倚シ皇考ノ遺業ヲ紹述シ倍々皇國ノ光威ヲ顯彰シ億兆ノ福祉ヲ増進セ^ムキヲ冀フ^{コト}汝等軍人ハ皇考ノ遺訓ニ由リ以テ直々ニ之ヲ朕カ躬ニ效シ愈々奉公ノ志ヲ鞏クシ思索ノ透ラ慎ミ宇内ノ大勢ニ鑑ミ時世ノ進退ニ伴ヒ拮据勦精各其本分ヲ竭クシ朕カ股肱タルノ實ヲ舉ク^テ以テ皇誤ヲ扶翼センコトヲ期セヨ

午後五時二十五分皇后ト俱ニ大行天皇ニ親訣アラセラル。皇太子裕仁親王・皇子雅仁親王・宣仁親王ヲ始メ皇族・入勳位・親任官・宮内勅任官・大行天皇側近奉仕ノ

御舟入ノ儀

當分青山離宮ヨリ日々宮城ニ出御アラセラルル

當分ヨリ日々宮城ニ出御アラセラルル

殿朝

高等官並ビニ大行天皇親族タル華族總代等ニ拜謁ヲ許シ給ヒ、八時御舟入ノ儀有リ。皇后ト俱ニ再ビ出御、御拜ノ後、九時三十分御同列ニテ青山離宮ニ還御アラセラルル。爾後、當分ノ内、青山離宮ヨリ日々宮城ニ出御アラセラルル。侍從殿日記・侍從武官府日記・皇太后宮職日記・日記・典侍日記・儀式録・官報・大廳記録

是ノ日、八月四日迄五日間廢朝ヲ仰出サレ、其ノ間、凶人ノ服役ヲ特免シ、死刑等ノ執行並ヒニ歌舞音曲ヲ停止セシメ、且ツ大喪儀ノ當日モ亦同ジク廢朝トシ、又八月三日軍隊禮式ニヨル軍樂及ヒ喇叭ノ吹奏ヲ止メ、禮砲式ヲ廢シ、懲罰ノ免除ヲ施行セシム。而シテ七月三十日

圖書寮

各國元首ノ祝電

ヨリ翌大正二年七月二十九日ニ至ル滿一ヶ年喪ヲ服セラ

ル。侍從殿日記・侍從武官府日記・明治天皇大喪儀・官報

八月一日、白耳義國皇帝あるべしる並ヒニ皇后ヨリ誠辭ヲ敬賀シテ懇篤ナル祝電ヲ寄セフレタルヲ以テ、直ニ答禮ノ親電ヲ發送アラセラル。爾後、締盟國各元首。皇族ヨリ御祝電到達スル毎ニ一々答禮アラセラレタリ。外

慶弔録・官報

二日、皇太子裕仁親王並ビニ皇子雅仁親王・宣仁親王ニ皇后ト俱ニ謁ヲ賜フ。侍從殿日記

六日、大行天皇ノ大喪儀ヲ來ル九月十三日ヨリ十五日

御殿所ノ治

ニ亘リテ行ヒ、京都府紀伊郡堀内村大字堀内字古城山ヲ御殿所ト定メラル。明治天皇大
聖諭・官報

十日祭ニ御

八日、午前十時四分青山離宮御出門、皇后ト俱ニ宮城ニ出御、大行天皇十日祭ヲ行ハセラレ、御拜アリ、午後零時三十七分還御、皇后ハ五時五分還御アラセラル。是ヨリ後、八月十八日殯宮二十日祭ヲ、八月二十八日殯宮三十日祭ヲ、九月七日殯宮四日祭ヲ、九月十七日權殿五十日祭ヲ行ハセラレ、殯宮、又ハ權殿ニ眞柳壹對等ヲ供ヘシメ、親シク御拜アラセラル。猶ホ權殿五十日祭ト共ニ山陵ニ於テ山陵五十日祭ヲ行ハシメ、載仁親王ヲ御

李完用ヲ中樞院副議長トナス

名代トシテ參向セシメラレタリ。侍從職日記・典
侍日記・官報

九日、朝鮮總督府中樞院副議長子爵金允植ノ願ニ依リ本職ヲ免シ、朝鮮總督府中樞院顧問伯爵李完用ヲ以テ之ニ代フ。官報

淺田信興ヲ陸軍大將ニ任ス

十日、陸軍中將從三位勳一等功二級男爵淺田信興ヲ陸軍大將ニ任ス。侍從職日記
記・官報

内大臣兼侍從長ノ更迭

十三日、午前九時三十五分青山離宮御出門、皇后ト俱ニ宮城ニ出御、十一時親任式ヲ行ハセラレ、陸軍大將正二位大勳位功三級公爵桂太郎ヲ内大臣兼侍從長ニ任シ、侍從長兼内大臣從一位大勳位公爵德大寺實則ノ本官更ヒ

貞愛親王・
殿仁親王ニ
勅語ヲ賜フ

ニ兼旨ヲ免シ、特ニ大臣ノ禮遇ヲ賜フ、夫ヨリ貞愛親王
ヲ御前ニ召シ、左ノ勅語ヲ賜フ。

元勳ニ勅語
ヲ賜フ

卿累世ノ懿親ヲ以テ多年力ヲ國家ニ致シ德望共ニ隆
シ朕粹ニ大喪ニ遭ヒ非徳ヲ以テ大統ヲ繼キ夙夜淬勵
先帝ノ遺徳ヲ宣揚セムコトヲ期ス卿宜シク師佐スル
所アリ以テ朕カ志ヲ成就セシムヘシ
猶ホ舞子ニ靜養中ノ殿仁親王ニモ同様ナル勅語ヲ賜ヒ、
之ヲ傳達セシム。尋イテ大勳位候爵松方正義・同候爵井
上馨・同公爵桂太郎ヲ召シ、各々左ノ勅語ヲ賜フ。
朕粹ニ大統ヲ承ケ夙夜兢々速ハサラムコトヲ懼ル卿

圖書寮

内閣總理大
臣ニ勅語ヲ
賜フ

多年先帝ニ奉事シ親シク聖旨ヲ承ク朕今先帝ノ遺業
ヲ繼クニ當テ復卿ノ匡補ニ須ツモノ多シ卿宜シク朕
カ意ヲ體シ朕カ業ヲ輔クル所アルヘシ
更ニ内閣總理大臣侯爵西園寺公望ヲ御前ニ召シ、左ノ勅
語ヲ賜フ。

朕新ニ大統ヲ繼キ内外多事ノ日ニ方リ夙夜憂慮先帝
ノ遺業ヲ曠クセサラムコトヲ思フ宮中府中宜シク協
力相禱補シ以テ朕カ事ヲ贊養スヘシ卿輔國ノ任ニ膺
リ兒ク此意ヲ體シ諸大臣ニ傳フル所アレ
蓋シ多年先帝ニ奉事セル元勳等ヲ優遇アラセラルル聖慮

殯宮移御ノ儀ニ出御

ニ外ナラス。

午後零時三十分青山離宮ニ遷御、三時二十九分再ヒ皇
后ト俱ニ昌城ニ出御、殯宮移御ノ儀ヲ行ハセラル。是ヨ
リ先、午後一時大喪使諸員、殯宮ト定メツレタル正殿ノ
裝飾ヲ行ヒ、左右後三面ニ白色ノ帛ヲ以テ壁代ヲ作り、
前面ニ同色ノ帛ニテ御帳ヲ、緑白色ノ平絹ヲ用ヒタル御
簾ト共ニ懸ケ、中央ニ寶鷹ヲ鋪キテ御座トナシ、御後ニ
屏風ヲ立テ御内柵ヲ御座ノ傍ニ置ク。定刻殯宮前ノ御階
ニハ大禮服ヲ着セル親任待遇。公爵。従一位。勳一等。近
衛。公。及ヒ大喪使關係諸員等臘列ス。午後五時式部

圖書寮

長官伯爵戸田氏共。宮内大臣伯爵渡邊千秋前行シ、侍從
以下諸員ニ入行大皇靈柩ノ御柩ヲ執フシメテ常御所ヨリ
殯宮ニ移御、靈柩ノ御後ニハ侍從長公爵桂太郎以下侍從
以下侍從武官長男爵中村覺以下侍從武官屬從ス。天皇、
皇后。皇太后ト俱ニ皇族。大勳位。親任官。大臣禮遇並
ヒニ其ノ妻及ヒ大喪使事務官等ヲ供奉セシメ、之ニ從ヒ
テ殯宮ニ進ミ、後、便殿ニ入御、尋イテ參列諸員ノ本位
ニ就クヲ待テ、再ヒ皇后。皇太后ト俱ニ殯宮ニ出御フツ
セラル。即テ葵榮裡ニ祭官御簾ヲ奉ゲ、祭官副長伯爵止
親町實正以下祭官供御ノ御儀ヲ奠シ、祭官長公爵藤原

殯宮移御翌日祭ニ出御

進長ミテ祭詞ヲ奏シ終ルヤ、御拜アリ、尋イデ皇后。皇太后。皇族ノ御拜ノ後入御、午後八時三分皇后ト俱ニ青山離宮ニ還御アツセラル。侍從雜日記・典侍日記・官報・進退録

十四日、殯宮移御翌日祭ニヨリ、午前七時四十分青山離宮御出門、皇后ト俱ニ宮城ニ出御、式部長官伯爵戸田氏共。宮内大臣伯爵渡邊千秋ヲ前行セシメ、殯宮ニ臨御、祭官、御饗。幣物ヲ奠シ、祭官長公爵鷹司照通祭詞ヲ奏シタル後、御拜、御誄ヲ奏セサセラル。御誄ニ曰ク、

皇考大皇尊大前ニ敬ミテ白ス茲ニ正殿ヲ裝飾シテ以テ殯宮ニ允テ靈柩ヲ奉安シテ以テ祭典ヲ修ム恩答日

圖書寮

御名代前定

攝取素彦

ニ在リ慈訓心ニ銘ス思慕ノ至ニ勝ヘス敬ミテ白ス

ト。午後零時三十分青山離宮ニ還御アラセラル。爾後、連日宮城ニ出御、殯宮ニ御拜アラセラル。侍從雜日記・官報・大典儀式錄

十五日、大喪儀當日宮城ヨリ青山葬場ニ至ル御途中、青山葬場殿御儀式後桃山陵所斂葬終了マデ、及ヒ斂葬翌日山陵祭、山陵五十日祭ノ御名代ヲ載仁親王ニ、皇后御名代ヲ載仁親王妃智恵子ニ、皇太后御名代ヲ依仁親王妃周子ニ命セラル。明治天皇大典・官報

是ノ日、宮中顧問官從二位勳二等男爵攝取素彦病篤

伊國皇太后
電ヲ御
發送

特命檢閱使
ノ復奏

ニヨリ、特旨ヲ以テ正二位ニ陞敘シ、勳一等ニ敘シ、瑞
寶章ヲ授ケラル。薨スルニ及ビ祭葬料金千五百圓ヲ、更
ニ送葬ニ際シ幣帛貳匹ヲ賜ヒ、勅使山口縣知事馬淵銳太
郎ヲ其ノ邸ニ遣サル。恩賜 官報

十六日、伊太利國皇太后母せのあ太公大妃そん・ある
てす・ろあいやる・ら・でつしえす・ど・じえいぬ・
めいる薨セルニヨリ、皇后ト俱ニ同國皇太后ニ弔問ノ電
報ヲ發送アラセフレ、翌十七日皇太后各禮ノ電報ヲ受ケ
給フ。外交 官報
十七日、午前十一時第一特命檢閱使陸軍大將貞愛親王

圖書寮

特命檢閱使
ノ復奏

ノ近衛・第十五兩師團、第二特命檢閱使陸軍大將子爵川
村景明ノ第一・第十六兩師團、第三特命檢閱使陸軍大將
子爵大島久直ノ第十・第十一兩師團ノ各檢閱狀況覆奏ヲ
歡聞アラセラル。其ノ間、陸軍大臣男爵上原勇作・侍從
武官長男爵中村覺侍立ス。斯クテ本年度特命檢閱終了セ
ルヲ以テ、十月十四日千種間ニテ午餐ノ御儀アリ、貞愛
親王・敏仁親王ヲ召シ、元帥公爵大山巖・内大臣公爵桂
太郎・元帥伯爵奥保鞏・宮内大臣伯爵渡邊千秋・陸軍大
臣男爵上原勇作・參謀總長陸軍大將子爵長谷川好道・陸
軍大將子爵川村景明・同子爵大島義昌・同子爵大島久直・

特派使節接
伴事務委員
任命

同男爵後出信興・侍從武官長男爵中村覺・宮中顧問官男爵堤正誼・主獵頭男爵米田虎雄・陸軍次官岡市之助・參謀次長陸軍少將大島健一・陸軍少將田中毅一等勳位二等特命檢閱使屬員ニ陪食ヲ賜フ。侍從職日記・侍從武官府日誌・宣台錄・官報

是ノ日、大喪儀參列特派使節接伴事務委員ヲ式部長官伯爵戸田氏共・帝室會計審査局長官彌藤桃太郎・式部次官公爵伊藤博邦・宮内次官河村金五郎・陸軍次官岡市之助・海軍次官財部彪・外務次官倉知鐵吉・式部官子爵稻葉正繩・宮内省御用掛井上勝之助・外務書記官男爵大島富士太郎ニ命ス。進退錄・官報

帝國議會開
院式

二十三日、帝國議會ノ開院式ヲ貴族院ニ於テ行ハシメ、諒閣中ノ故ヲ以テ臨御アラセラレス、内閣總理大臣侯爵西園寺公望ヲシテ式場ニ臨マシメ、左ノ勅語ヲ捧讀セシム。

朕茲ニ帝國議會開院ノ式ヲ行ヒ貴族院及衆議院ノ各員ニ告ク

朕新ニ大統ヲ繼キ祖宗ノ宏謨ニ遵ヒ先帝ノ遺緒ヲ紹述セムコトヲ期ス

朕今皇考大喪ノ儀ヲ行ハムトスルニ方リ國務大臣ニ命シテ之ニ關スル豫算案ヲ提出セシム卿等審議以テ

協賛ノ任ヲ賜サムコトヲ望ム

是ニ於テ翌二十四日貴族院議長公爵徳川家達。衆議院議長大岡育造參内、宮内大臣伯爵渡邊千秋ヲ經テ奉答書ヲ捧呈ス。議會ニ於テハ大喪費金額百五拾四萬五千參百八十九圓ノ豫算案ヲ審議シ、滿場一致ヲ以テ可決セルニヨリ、二十六日帝國議會ノ閉會式ヲ行ハシメラル。帝國議會報

報官

二十四日、東宮職官制ヲ改正セシメ、東宮侍講ヲ廢ス。報官

是ノ日、東宮職御用掛權密顧問官子爵杉孫七郎ノ東宮職御用掛ヲ免ジ、宮内省御用掛ト爲ス。進退錄。官報

追號奉告ノ儀

二十七日、午前七時四十分青山離宮御出門、皇后ト俱ニ宮城ニ出御、大行天皇追號奉告ノ儀ヲ行ハセラル。即チ九時大勳位。親任官以下參列ノ諸員本位ニ就クヤ、式部長官伯爵戸田氏共。宮内大臣伯爵渡邊千秋ヲ前行セシメ、侍從長公爵桂太郎。侍從武官長男爵中村覺等ヲ扈從モシメテ殯宮ニ出御、祭官、御饌。幣物ヲ奠シ、祭官長公爵藤司無通祭詞ヲ奏セル後、御拜アリ、追號ヲ明治天皇ト奉告アツセラル。其ノ文ニ曰ク、嘉仁謹テ皇考ノ靈前ニ白ス皇考徳業ノ弘大ナル之ヲ表彰スル所ヲ知ラス四十五

締盟國各元首ニ明治天皇ノ崩御ヲ

年間ノ昌代ヲ欽慕シテ明治天皇ト追稱シ奉ル謹テ茲ニ奉告ス

ト、訖リテ入御、午後零時三十五分青山離宮ニ還御アラセラル、侍從職日記・侍從武官府日記・侍從武官府日記・侍從武官府日記・大喪儀式録

三十日、明治天皇正忌ニ當ルヲ以テ、午前九時青山離宮御出門、宮城ニ出御、殯宮ニ御拜アリ、午後零時三十分還御アラセラル。爾後、諒闇中毎月權殿御拜此ノ如シ。侍從職日記・侍從武官府日記・侍從武官府日記・侍從武官府日記・侍從武官府日記・侍從武官府日記・侍從武官府日記・侍從武官府日記・侍從武官府日記・侍從武官府日記

是ノ日、締盟國元首ニ親電ヲ發シ、明治天皇崩御ニ送ニ踐祚ノ事ヲ報ゼラル。今具ノ一タル英吉利國皇帝ニ送

圖書寮

報ゼラル

ラモ給ヘルモノヲ左ニ録シ奉ルヘシ。

大不列顛及愛蘭土國皇帝タル朕ノ良兄ニ白ス

朕ノ崇敬愛慕スル父皇（御名）陛下ハ明治四十五年七月三十日ヲ以テ東京宮城ニ於テ崩御セラレタルコトヲ茲ニ陛下ニ報スルハ朕ノ痛悼ニ堪ヘサル所ナリ

朕ハ此ノ大故ニ際シ陛下カ朕及朕ノ皇室並ニ國民ト哀戚ヲ共ニセラルヘキヲ確信ス

朕ハ此ノ悲報ト共ニ朕ノ踐祚ヲ陛下ニ告知スルニ方リ幸ニ貴我兩國間ニ現存スル交誼ラシテ益々敦厚親密ナラシメンコトヲ切望ス莫クハ陛下朕ノ誠實不渝

ノ友情ヲ信認セラレシコトヲ此ノ機ニ於テ朕ハ陛下ノ康寧ト貴皇室ノ繁榮トヲ祈リ併セテ最高ノ敬意ヲ表ス

大正元年八月三十日

東京宮城ニ於テ

陛下ノ良弟

御名

猶ホ獨逸國皇帝ニ對シテハ「朕ノ良兄良從兄タル獨逸國及普魯西國皇帝陛下ニ白ス」ト記シ給ヒ、「陛下ノ良弟良從弟」ト仰セラレ、露西亞國皇帝ニ對シテハ「天祐ヲ

圖書寮

保有シ萬世一系ノ帝祚ヲ踐メル大日本國皇帝（御名）謹
テ全露西亞國もすくう。きをふ。うらちみる。のうおご
ろとノ獨裁皇帝、かさん皇帝、あすとりかん皇帝、波蘭
皇帝、西伯利皇帝、しゑるそねーす。とーりつく皇帝、
じよーるじ皇帝、ぶれすこふ君王、すもれんすく。りつ
めに。うおるひに。ぼどり及芬蘭太公、ゑすとに。りう
おに。くーるらんど。ゑ。せみがる。さもじち。ひゑろ
すとつく。かれり。つうえる。ゆごり。べるむ。ういあ
か。ぼるがり等ノ公、のふごろと。あんふゑりうーる。
つゑるにこつふ。りゑさん。ぼろつく。ろすとふ。やろ

すらふ・べるうせるすく・うーどる・をぶどる・こんち。
 ういてづすく・むすちすらふ君主兼太公、北部諸州ノ領
 主、いへりや・かるたりにや・かばるちー及あるめにや
 州君王、しるかしや諸公及山領諸公ノ世襲大君主、とる
 さすたん君王、諸戚相續者、しゆれすういつく・ほるす
 たいん・すとるまるん・ちどまるせん及おるてんほるく
 公タルにこらす第二世陛下ニ白スート爲シ給ヒ、埃匈國
 ニ對シテハ「威德隆盛ナル朕ノ良友ニ白スート認メサセ
 ラル。又佛蘭西國ニ發シ給ヘルモノニハ「朕ノ良友佛蘭
 西共和國大統領閣下ニ白スートアリ、亞米利加合衆國ニ

圖書寮

天長節ノ祝
 宴ヲ止メテ
 セラル

ういるへる
 みな和國皇
 帝ノ慶辰ヲ
 賀シ給フ

對シテハ「威德隆盛ナル朕ノ良友亞米利加合衆國大統領
 ニ白スートシ給フ等冠首ノ文ニ差違アルヲ拜スルノミ。
 報セラルル處ハ皆概テ御趣旨ヲ同ウス。外交
 事務
 三十一日、諒閣ニヨリ天長節ノ祝宴ヲ止メラル。但シ
 祝賀ノ電報ヲ寄セタル埃匈地利匈牙利國皇帝・暹羅國皇帝・
 獨逸國皇帝及ヒ伊太利國皇太后等ニハ答禮ノ電報ヲ發送
 フラセラル。儀式
 官報
 是ノ日、和蘭國皇帝ういるへるみなノ誕辰ニヨリ、祝
 賀ノ電報ヲ發送アラセラル。其ノ文ニ曰ク、
 朕及皇后ハ陛下ノ誕辰ニ際シ誠實ナル祝詞ヲ致シ併

セテ陛下ノ幸福ト貴皇室ノ繁榮ヲ祈ル
 ト。御祝電ニ對シ九月一日「陛下及皇后陛下ニ對シ誠實
 ナル祝詞ヲ感謝ス」ル旨ウイテるみな皇帝ヨリ御答ヲ
 受ケサセラル。因ニ從來和蘭國皇帝誕辰日竝ビニ天長節
 ニハ相互ニ御祝電御發受遊ハサレシガ、去ル明治四十三
 四ノ兩年共、和蘭國皇帝誕辰日ニ祝電ヲ發送ラセラレ
 タルニ拘ハラズ、天長節ニハ兩年トモ來ラザリシニ依リ、
 今回同皇帝ニ對シ御祝電發送ハ御見合セアルベキヤ否ヤ
 ノ議起リシガ、同國掛官ハ其ノ手續ヲ履ミ、皇帝モ亦御
 祝電ヲ發信濟ト信シ給ヒシ事明カトナレルヲ以テ茲ニ先

圖 書 寮

大喪儀參列
 ノ外國皇族
 特派大使ノ
 接待員ヲ仰
 出ナル

年ノ例ニ倣ヒ給フニ至レルナリ。但シ同皇帝ガ女帝ナル
 ニヨリ今回ヨリ一朕及皇后ハ陛下ノ誕辰ニ際シ「ト文ヲ
 改メ給ヘリ。而シテ九月一日天長節御祝電モ到達セルニ
 ヨリ大皇モ亦之ニ對シ御答電アリ、茲ニ舊ノ如ク相互ニ
 御交換ノコトトナリ、爾後、恒例タリ。
外交 慶 弔 錄
 九月一日、大喪儀參列ノ爲メ來航スベキ英吉利國皇族
 あいさし・おぶ・こんのいと親王ノ接待員ヲ陸軍大將伯
 爵乃木希典・海軍中將男爵坂本俊篤・式部官子爵稻葉正
 純・總領事芳澤謙吉・陸軍砲兵中佐吉田豊彦ニ、獨逸國
 皇族はいんりつひ親王ノ接待員ヲ宮内省御用掛井上勝之

セテ陛下ノ幸福ト貴皇室ノ繁榮ヲ祈ル
 ト。御祝電ニ對シ九月一日「陛下及皇后陛下ニ對シ誠實
 ナル祝詞ヲ感謝ス」ル旨ウイテるへるみな皇帝ヨリ御答ヲ
 受ケサセラル。因ニ從來和蘭國皇帝誕辰日竝ヒニ天長節
 ニハ相互ニ御祝電御發受遊ハサレシガ、去ル明治四十三
 四ノ兩年共、和蘭國皇帝誕辰日ニ祝電ヲ發送ラセラレ
 タルニ拘ハラズ、天長節ニハ兩年トモ來ラザリシニ依リ、
 今同皇帝ニ對シ御祝電發送ハ御見合セアルベキヤ否ヤ
 ノ議起リシカ、同國掛官ハ其ノ手續ヲ履ミ、皇帝モ亦御
 祝電ヲ發信濟ト信シ給ヒシ事明カトナレルヲ以テ茲ニ先

圖書寮

大製儀參列
 ノ外國皇族
 特派大使ノ
 接待員ヲ仰
 出アル

年ノ例ニ倣ヒ給フニ至レルナリ。但シ同皇帝ガ女帝ナル
 ニヨリ今回ヨリ「朕及皇后ハ陛下ノ誕辰ニ際シ」ト文ヲ
 改メ給ヘリ。而シテ九月一日天長節御祝電モ到達セルニ
 ヨリ大皇モ亦之ニ對シ御答電アリ、茲ニ舊ノ如ク相互ニ
 御交換ノコトトナリ、爾後、恒例タリ。
外交慶
 弔錄
 九月一日、大製儀參列ノ爲メ來航スベキ英吉利國皇族
 あいさし・おぶ・こんのいと親王ノ接待員ヲ陸軍大將伯
 爵乃木希典・海軍中將男爵坂本俊篤・式部官子爵稻葉正
 純・總領事芳澤謙吉・陸軍砲兵中佐吉田豊彦ニ、獨逸國
 皇族はいんりつひ親王ノ接待員ヲ宮内省御用掛井上勝之

助・海軍中將八代六郎・陸軍少將大庭二郎・式部官蟬須
 賀正韶・外務書記官古谷重綱ニ、亞米利加合衆國特派大
 使のつくすノ接伴員ヲ特命全權大使子爵栗野慎一郎・大
 使官參事官松井慶四郎・海軍少將村上格一・式部官渡邊
 直達・陸軍騎兵中佐田中國重ニ、佛蘭西國特派大使るば
 んノ接伴員ヲ陸軍中將秋山好古・式部官市來政方・陸軍
 歩兵中佐福原佳哉・海軍中佐松村菊勇・式部官子爵土屋
 正直ニ、西班牙國皇族どん・あるふんそ・で・おるれ
 あん・い・ぼるぼん親王ノ接伴員ヲ陸軍中將村田淳・呂
 中顧問官田内三吉・海軍少將山屋他人・式部官伯爵龜井

休日ヲ定ム

茲常ニ命ズ。 進退録
官報

三日、祭日及ヒ祝日ヲ休日トシ之ヲ公布施行セシメ、
 明治六年太政官布告第三百四十四號ヲ廢止ス。休日ト定
 メフレタルモノハ一月三日元始祭、一月五日新年宴會、
 二月十一日紀元節、四月三日神武天皇祭、七月三十日明
 治天皇祭、八月三十一日天長節、十月十七日神嘗祭、十
 一月二十三日新嘗祭、春分日春季皇靈祭及ヒ秋分日秋季
 皇靈祭是ナリ。 官報
 四日、埃地利國牙利國特命全權大使男爵らぢすらす・
 みゆるれる・ど・すつえんときおるぎ一信任狀捧呈ノ爲

埃地利國大使
信任狀捧呈

メ参内ス。是ヨリ先、迎引ノ爲メ式部官子爵松平頼和ヲ
 儀裝車ニテ大使館ニ遣シ、且ツ儀仗近衛騎兵一箇小隊ヲ
 附セシム。午前十時三十分参内スルヤ、御車寄ニ於テ之
 ヲ迎ヘ、式部長官伯爵戸田氏共控所ニ誘引シ、侍従長公
 爵桂太郎・宮内大臣伯爵渡邊千秋・外務大臣子爵内田康
 哉等面接ス。其ノ間、鳳凰閣ニ出御、即チ戸田式部長官ノ
 誘導ニヨリ御前ニ進メル大使ヲ御引見、信任狀ヲ受ケサ
 セフル。尋イテ帶同ノ大使館参事官男爵じよーじ・ふち
 ん・つんと・つり・ふらんけんすたいん、大使館附陸軍
 兼海軍武官陸軍参謀少佐ふらんそあ・ふつつニ謁ヲ賜ヒ、

圖 書 寮

白 國 公 使 信
仕 狀 捧 呈

暫時入御ノ後、再ヒ出御、白耳驍國特命全權公使伯爵ど
 ら・ふのいゆ・ど・るうえるげむツ御引見、信任狀ヲ受
 クサセフレ、更ニ帶同ノ公使館一等書記官伯爵ふりつ
 ぶ・ど・ぼーふちるニ謁ヲ賜フ。其ノ儀總テ前同ノ如
 シ。

駐 劄 外 臣
元 預 官 拜 禮
元 預 官 拜 禮
元 預 官 拜 禮

期クテ信任狀捧呈ノ儀畢ルヤ、午前十一時鳳凰閣ニ於
 テ本邦駐劄各國大使・公使政ヒニ妻及ヒ大公使館員等ヲ
 御引見ノ儀、明治天皇ノ靈柩拜禮ヲ允シ給フ。依リテ英吉
 利國特命全權大使さー・くろーど・まつくすうえる・ま
 くどなるど外交團員一回ヲ代表シ、靈柩ノ御前ニ進ミテ

中詞ヲ朗讀シ、銀製花環ヲ捧呈ス。其ノ中詞左ノ如シ。
侍從武官日記。
謁見録・官報

本使ハ茲ニ外交團ヨリ獻納シタル花環ヲ至尊ナル靈
柩ニ奉奠スルニ際シ明治天皇ノ聖德ニ對シテ本使等
ノ懷抱セラル賀美ト崇敬ノ感念ヲ悲哀ノ裡ニ聲明スル
ノ光榮ヲ有ス

尤輝アル日本國ノ維新ニ對スル不磨ノ標章トシテ其
御名ヲ殘シ給ヒタル英明ナル君主ノ崩御ニ依リ世界
ヲ感動セシメタル深哀ニ對シテ本使等ハ本使等ノ君
主及大統領竝ヒニ本使等ノ政府ト共ニ其感ヲ同フス

圖書寮

侍從武官ノ
差遣

皇太子ヲ隨
海軍少尉ニ
仕シ大副位
菊花大綬章

大正元年九月

四九

向ホ本使ハ外交團ヲ代表シテ皇帝皇后兩陛下皇室政
府及日本全國ノ上ニ降りタル悲哀ニ對スル本使等ノ
誠實ナル同情ヲ表彰シ同時ニ本使等一同ハ今開始セ
フレタル新御治世ノ無疆ナランコトヲ懇禱ス

六日、野他兵第十八聯隊ニ於テ去ル三日實彈射擊演習
中他彈爆發シ、陸軍他兵中尉佐野光勇外兵卒七名負傷セ
シヲ以テ、是ノ日侍從武官男爵山根一貫ヲ同聯隊ニ遣シ、
御菓子料ヲ賜フ。恩賜録・侍從武
官府日誌・官報

九日、皇太子裕仁親王ヲ陸軍歩兵少尉。海軍少尉ニ任
シ近衛歩兵第一聯隊附竝ヒニ第一艦隊附ニ補シ、勅使侍從長

ヲ親授

東京假御所
ノ指定

李貴公薨ス

公爵桂太郎ヲシテ官記辭令ヲ皇太子ニ呈セシム。午前十時三十分鳳凰閣ニ出御、皇太子裕仁親王ニ謁ヲ賜ヒ、大勳位ニ敘シ、菊花大綬章並ヒニ勳一等旭日桐花大綬章及ビ勳一等瑞寶章ヲ併セテ親授ノ後、入御アラセラル。猶ホ又皇子假御殿ヲ以テ東京假御所ト定メ給フ。典式錄・侍從職日記・侍從武官府日記・典侍日記・皇親錄・官報

是ノ日、勳一等李貴公午前零時三十分薨ス。是ヨリ先公、慢性腎臟炎ニ罹リ、昨年夏尿毒症ヲ發シ、後、病勢鎮靜メシガ、本月四日尿毒症ヲ再發セルヲ以テ、七日加養スベキ旨ヲ傳ヘシメ、且ツ葡萄酒壹打ヲ賜ヒテ慰問ヲフセラレシガ、遂ニ效ニ至レリ。因リテ繼嗣李煇鎔ニ哀

圖書寮

勅使差遣

陸海軍ノ弔
禮ヲ行ハシム
李煇鎔ヲシテ
父ノ榮錫ヲ
襲カシム

悼ノ電報ヲ發シ、二十八日送葬ニ當リ勅使トシテ李王職事務官李恒九ヲ具ノ邸ニ遣シ、祭乘料・幣帛料ヲ賜ヒ、葬儀ヲ嚴肅ナラシムル爲メ歩兵第三十一聯隊ノ二大隊並ヒニ朝鮮歩兵隊ヲ派シ儀仗兵トナシ、軍艦津輕ヲ仁川ニ同航シ、特ニ陸海軍ノ弔禮ヲ行ハシメ、且ツ棺前並ヒニ葬祭式場ニ再ヒ李恒九ヲ遣シ給フ。後、九月二十日故李貴公繼嗣勳一等李煇鎔ヲシテ父ノ榮錫ヲ襲カシメ、具ノ名ヲ李煇公ト改メシム。因ニ李貴公ハ舊韓國ノ皇族ニシテ獻懿大院王ノ男ナリ。始メ載冕ト稱シ、後、煇ト改メ、明治四十三年八月二十九日韓國併合ノ際、勅旨ヲ以テ公

獨・西國皇族ノ人京ヲ迎ヘ給フ

ト爲シ、待ツニ皇族ノ禮ヲ以テシ殿下ノ敬稱ヲ用ヒシフル。恩賜錄・王公族錄・慶弔錄・官報

十日、大喪儀參列ノ爲メ獨逸國皇族はいんりつひ親王入京スルニヨリ、御正裝ニテ特ニ同國ノ黒鷲大綬章・同星章及ヒ同赤鷲こんまんとしるヲ御佩用、午前十時三十分宮城御出門、新橋停車場ニ親シク迎ヘ給ヒ、十一時二十五分宮城ニ還幸アリ。後、再ヒ新橋停車場ニ、西班牙國皇族どん・あるふもんそ・で・おるれあん・い・ぼるぼん親王ヲ迎ヘ給ヒ、午後四時五十分青山離宮ニ還幸アフレラル。又翌十一日ニハ英吉利國皇族あーざー・おふ。

圖書寮

ぼるぼん親王・はいんりつひ親王・このいと親王・御贈進

このいと親王來朝スルヲ以テ、之ヲ新橋停車場ニ迎ヘ給フコト略々今日ノ如シ。因ニはいんりつひ親王ハ霞關離宮ニ、ぼるぼん親王ハ芝離宮ニ、このいと親王ハ伏見宮邸ニ滞在ス。猶ホ入京ノ日其ノ館ニ侍從長公爵桂太郎ヲ遣シ、ぼるぼん親王ニハ大勳位菊花大綬章ヲ、はいんりつひ親王竝ヒニこのいと親王ニハ執レモ大勳位菊花章頸飾ヲ贈進アフレタリ。侍從日記・典侍日記・外賓參内錄・外賓接待錄・官報

是ノ日、救恤金千八百圓ヲ高知縣廳ニ賜フ。蓋シ去ル八月二十三日暴風雨アリ、其ノ被害甚カラザリシヲ以ッ

3204 231

大正元年九月

フリ。恩賜
官報録。

五四

圖書寮

3204 232

64047

3204 233

